



近藤きくお県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

県議会副議長に就任

妙典橋実現に向け「感慨無量」

補正予算で事業費計上



第61代県議会副議長に就任した近藤喜久夫県議(9月定例県議会)

近藤議員(仮称)妙典橋は、市川市にとつて外環道路受け入れ条件の一つでありました。私ささか思入れが私あります。私は市川市議会議員として、地域均衡の取れた交通網整備には、市内妙典地先に橋を架けるべきだと訴え続けてきました。

森田知事 江戸川を渡河する妙典橋は、外環と交差するバイパス道路の一部であり、慢性的な渋滞をきたしている市川市内の交通混雑の緩和に大きく寄与するものです。妙典橋の整備につきましては、平成十一年度から用地買収に着手し、用地の協力が得られた箇所から順次工事を実施しており、今後積極的に用地買収及び工事を進めてまいります。また、橋梁本体工事は、現在進めている河川管理者等関係機関との協議が整いつつあり、速やかに橋梁下部工事に着手し、外環の完成に合わせてように努めてまいります。

【要望】妙典橋については、このうえは、今年のうちにも早く着工し、橋の姿が目に見えるよう要望します。

国道14号市川拡幅今年度から用買着手

近藤議員 外環道路に直結する国道14号の市川駅付近までの四車線化も外環の事業に合わせて完成するものと考えていますが、国道14号の市川拡幅事業の進捗状況はどうか。県土整備部長 市川拡幅につきましては、市内の交通渋滞の緩和を図るため、外環の供用に合わせ、市川市市川地先から市川市新田地先までの間、約〇・八キロの四車線化整備を図ることとし、平成十九年度から事業に着手しております。これまでに道路詳細設計や地元説明会、境界立会いを実施し、今年度から用地

文化人が多く住み、歴史豊かな市川市。市議会議員から議長、そして県議会へと飛躍し、現在四期目を務める市川市選出の近藤喜久夫(こんどう・きくお)県議は、六月県議会の最終日に第61代副議長に選出されました。それに先立ち、近藤県議は一般質問に登壇し、市議会当時から自らその必要性を何度も訴え、二十数年の懸案だった(仮称)妙典橋に今議会で補正予算が計上され、着工の見通しがついたことから、議場で「感慨無量」と言葉を詰まらせました。近藤県議はこのほか、三番瀬海域での漁場の再生や千葉中・高校での中高一貫教育の現状などを質問しました。近藤県議の主な質疑を1、2面で特集します。

その後、紆余曲折がありました。本六月定例県議会の補正予算案で「妙典橋新設事業」が追加提案され、これまでの道のりを思い返すと、まさに感慨無量の思いです。そこで、妙典橋の現在の状況と橋梁本体の着手はいつか、伺います。

近藤きくお県議プロフィール 県議会副議長に就任

| ●略歴● | |
|------------------------------------|----------------------|
| 昭和16年6月 | 市川市生まれ |
| 50年4月 | 市川市議会議員に初当選、連続5期、同議長 |
| 平成7年4月 | 千葉県議会議員に初当選、現在4期目 |
| ●これまで都市水道常任委員長、農林水産常任委員長、予算委員長など歴任 | |
| 平成14年 | 春藍綬褒章受章 |
| ●現職● | |
| 県議会 | 総務常任委員会委員 |
| 自民党県連 | 財務委員会委員 |

市民の声を県政へ届けます

県政や市川市のご相談、ご意見を聞かせてください

近藤きくお 県議事務所

〒272-0144 市川市新井3-3-8
TEL.047-359-4645
FAX.047-359-5100

三番瀬海域「豊かな漁場を取り戻せ」

「流れづい」など漁場再生に努力

近藤議員 三番瀬は、東京湾に残された貴重な干潟・浅海域です。「かつての豊かであった漁場」をできる限り取り戻し、後世に残していかなければならないと考えます。三番瀬で漁業を営んできた漁業者は、近年の漁場環境の悪化に強い危機感を抱いております。そこで、三番瀬海域の漁業の実態はどのようなものであり、県はその現状をどのように認識しているのか。加えて、今後、漁場をいかに再生していくのか、伺います。

塩浜1丁目護岸、23年度に工事着手

近藤議員 老朽化の激しい市川市塩浜一丁目の護岸について、今後どのように進めていくのか。
 総合企画部長 塩浜一丁目護岸については、老朽化が進み、安全確保の観点から本格的な改修整備が必要だと認識しています。このため、市川市と協議・調整を重ねた結果、市の財政的な負担も得ながら、県が事業主体となって護岸の安全性や生態系に配慮した改修を進めることとしております。今年度は、地形測量や地質調査などの基礎調査を実施する予定です。

農林水産部長 三番瀬周辺海域の埋め立てがほぼ完了した昭和五十五年当時は、アサリ漁では六千六百三十八トン、ノリ養殖業では、四千六百万枚を生産していましたが、その後、減少が続きました。平成十九年にはアサリは五百八十九トン、ノリも三千五百万枚と厳しい状況にあります。



県議会一般質問で質疑に立つ近藤喜久夫県議

また、三番瀬海域では、潮の流れの停滞や海底地形の変化の影響等により、岸側の漁場が利用されなくなっていることなどか

を踏まえて、当面の取り組みとしての堆積・腐敗して魚場環境に悪影響を及ぼす「アオサ対策」の事業や、長期的な取り組みとしての潮の流れの停滞や波浪の増大等を改善するため、「流れづい」の検討など、漁場再生に向けて取り組んでまいります。

中高一貫教育の現状問う

近藤議員 中高一貫教育は、ゆとりある六年間の教育を通して、生徒の個性や創造性を伸ばすものとして、大きな期待が寄せられています。

県立千葉中学校が開校して一年が経過しましたが、千葉中学校の生徒が、千葉高校へ進学するに当たって、現在、どのような取り組みを行っているのか。

教育長 千葉中学校では、「千葉から、日本でそして世界で活躍する心豊かな次代のリーダー」の育成を理念とし、系統化された一貫教育の中で、豊かな人間力を培っています。

特に、同じ領域や段階的に繰り返し学ぶスパイラル学習や思考力や表現力を互

いに高め、あう協同的な学びによって受験勉強とは一線を画した揺るぎない学力を育んでいくところ

このような取り組みを通して、千葉中学校の生徒は、他の中学校から入学してくる生徒と切磋琢磨しながら、



妙典橋予定地を視察する近藤喜久夫県議

22年度までに中学校棟建築

近藤議員 千葉中学校と千葉高校の学校行事や部活動での交流は、どのように行われているのか。

教育長 千葉中学校と千葉高校では、中高一貫教育ならではの特色を生かし、異なる年齢集団による活動を積極的に取り入れ、社会性や豊かな人間性を育てるというところ。具体的には、文化祭などにおける中高生の協力した取り組みや、部活動における合同練習などを通して、中学生は、高校生のレベルの高さに刺激を受け、向上心が高まっています。また、高校生も中学生を意識し、今までの以上に責任感をもって取り組むようになり、双方にとって良い影響が広がっています。今後も、中高生が目標に

向かって協力し合い、自らを磨き、知・徳・体のバランスの取れた、次代のリーダーにふさわしい資質を身につけていくものと考えています。

近藤議員 開校理念からして、現在の教育施設で十分であるか。

教育長 施設設備については、これまで高校の施設を改修し活用してきましたが、新たに校舎と屋内運動場を一体化した中学校棟を平成二十二年度までに建築することとし、現在、設計を終え、建築工事に向けた準備を進めているところで

市川市特集 県議会一般質問

ゆとりと豊かさを
実感できる市川市

近藤きくお県議

要望 旧千葉県総合教育センター・葛城分館の土地を千葉中・千葉高に編入するよう要望する。